経済動向調査レポート

令和４年 第４四半期

（調査対象：令和４年 10 月～12 月）

福崎町商工会

令和５年２月

【目次】

Ⅰ.経済動向のポイント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅱ.兵庫県の経済・雇用情勢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

１．概況（全体の状況）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

２．県内の主要業種の概況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

３．地域の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

Ⅲ.景況調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

１．景況調査について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

２．概況（全業種）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５

３．業種ごとの集計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

①製造業（有効調査数：189 件）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
②卸売業（有効調査数：48 件）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
③小売業（有効調査数：67 件）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
④サービス業（有効調査数：80 件）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
⑤建設業（有効調査数：103 件）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
⑥不動産業（有効調査数：30 件）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２

〇本レポート作成の目的

地域の経済・消費動向の現状を把握し、その情報を提供することで小規模事業者が経営方針を明確にし、経営分析および事業計画の策定に有効活用できるようにし、小規模事業者の売上や利益の増進に繋がるなど経営基盤の強化につなげることを目的とします。

〇本レポートの作成方法

福崎町商工会の会員事業所に対して「調査票」の記入を依頼、回収したデータを基に他の調査や情報とも比較してレポートを作成します。

Ⅰ．経済動向のポイント

【１】 兵庫県の経済・雇用情勢

① 兵庫県の経済・雇用情勢は、持ち直している。

個人消費と生産は緩やかに持ち直し、輸出と設備投資も増加傾向にある。一方、有効求人倍率は前月を下回り、倒産件数も前年を上回った。景況等の先行きも悪化の見込みである。

② 県内の主要業種においては、回復の途上にある。

鉄鋼業・飲食店・金融業では、売上と利益の増加や先行きの改善が見られる。一方、不動産業では土地購入の競争激化・客足減少・工期延長・金利上昇の影響が懸念される。

③ 各県民局・県民センターの２業種では、バラツキが大きい。

中播磨県民センターでは、「製造業」「百貨店業」の２業種について分析しており、製造業は悪化しているが、百貨店業は回復途上にある。

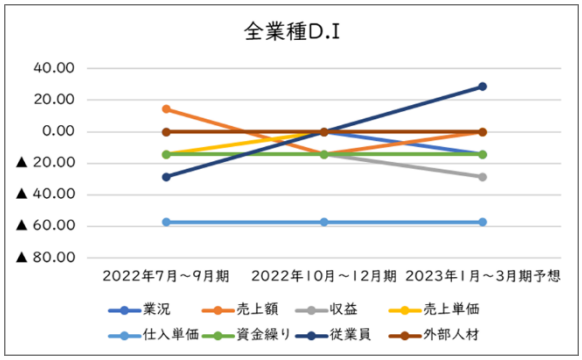
【２】景況調査

① D.I （ディフュージョン・インデ ックス）による分析。

D.I とは景気の各項目事項について、「良い」と感じている企業の割合から、「悪い」と感じている企業の割合を引いた値を示しており、地域別・業種別の分析指標としている。

② 福崎町の 2022 年 10 月～12 月期の景況感は上昇傾向にあるが、依然厳しい状況である。

当期の業況 D.I は０ポイントで、前期から横ばい状態が続いている。また、売上額に関する D.I が低下と厳しい状況だが、一方で売上単価・従業員に関する D.I は上昇した。2023 年１～３月来期予想は、ほぼ横ばいの依然厳しい予想である。来季の予想業況 D.I は▲14.29 ポイントで低下と厳しい予想である。売上額・従業員 D.I が低下、収益 D.I は上昇、その他は横ばいの予想である。



③ 姫路地域の小売業・サービス業・建設業の業況 D.I は改善している。

但陽信用金庫の取引先全地域の 6 業種（製造業・卸売業・小売業・サービス業・建設業・不動産業）の調査では、 2022 年 10 月～12 月期の姫路地域における業況 D.I 実績では、小売業・建設業で改善し、その他の業種は低下している。また、１月～３月期の姫路地域では小売業・サービス業で改善し、その他の業種は低下や横ばいの予想となった。

【３】中小企業診断士からのコメント

新型コロナウイルスの収束に合わせて、一部の業種では改善傾向が鮮明になりつつある。また、コロナ禍で利便性が再認識されたリモートワークやオンラインでの業務遂行は、コロナが収束した後も一部の企業では継続されることが見込まれる。一方、コロナ前から必要性が疑問視されていた業務・業態が再開・回復できる可能性は低い。はっきりと明暗が分かれた 3 年間を総括し、新たな時代に合致したビジネスモデルを構築されることを祈念したい。

（令和５年２月 22 日　中小企業診断士　荒木慎吾氏）

Ⅱ兵庫県の経済・雇用情勢（「兵庫県の経済・雇用情勢」（令和５年２月９日）から引用）

１．概況（全体の状況）

本県の経済・雇用情勢は、持ち直している。

景況等…企業の業況判断は、足もとは横ばいだが、先行きは悪化すると見込んでいる。

需　要…個人消費は、緩やかに持ち直している。

輸出は、増加している。設備投資は、増加計画にある。

生　産…生産は、持ち直しの動きとなっている。

雇　用…有効求人倍率は、前月を下回った。雇用者所得は、弱めの動きとなっている。

金　融…倒産件数は、前年を上回った。

主要指標の推移

①景況

現状（良いー悪い）構成比（%ポイント）

区　　分	R4.3月	R4.6月	R4.9月	R4.12月	R5.3月(予測)
全産業	▲1	▲3	3	2	▲3
大企業	15	6	8	10	4
中堅企業	▲2	▲1	10	3	6
中小企業	▲8	▲8	▲2	▲3	▲13
うち製造業	1	▲5	▲1	▲3	▲ 5
うち非製造業	▲4	0	10	7	▲3

（出所）県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

②需要

項　　目	R2年度	R3年度	R4.8月	R4.9月	R4.10月	R4.11月	R4.12月
商業販売額：億円	17,960	18,016	1,550	1,479	1,529	1,504	1,879
（前年度比増減率%）	(+1.1)	(+0.3)	(+2.1)	(＋1.9)	(+3.0)	(＋1.5)	(＋4.8)
（前々年度比増減率%）			(▲4.7)	(＋1.7)	(＋6.1)	(＋2.9)	(＋5.1)
乗用車販売台数：台	152,809	141,627	9,361	13,009	11,632	12,503	11,679
（前年度比増減率%）	(▲8.7)	(▲7.3)	(▲6.3)	(＋18.6)	(＋21.6)	(＋5.9)	(▲1.1)
（前々年度比増減率%）			(▲7.9)	(▲15.4)	(▲15.1)	(▲9.1)	(▲8.3)
新設住宅着工数：戸	30,551	29,844	2,797	2,265	3,274	2,930	2,651
（前年度比増減率%）	(▲3.2)	(▲2.3)	(＋5.9)	(▲11.8)	(＋21.3)	(＋4.3)	(＋2.2)
神戸港輸出額：億円	49,756	61,520	6,028	6,245	6,689	6,641	6,690
（前年度比増減率%）	(▲8.4)	(＋23.6)	(＋28.1)	(+24.7)	(+23.7)	(+31.7)	(+19.2)

（出所）商業動態統計（経済産業省）、新車登録速報（日本自動車販売協会連合会兵庫県支部）、軽自動車新車届出状況（兵庫県軽自動車協会）、住宅着工統計（国土交通省）、神戸港貿易概況（神戸税関）（商業動態統計調査の前年度比増減率は全店ベース）

項　　目	30年度	R1年度	R2年度	R3年度(実績)	R4年度(計画)
設備投資額（前年度比増減率：%）	＋0.8	▲1.2	2.4	▲13.4	25.4
（H27年度比：H27＝100）	(115.2)	(113.9)	(116.6)	(101.0)	(126.6)

（出所）県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

③生産

項　　目	R2 年度	R3 年度	R4.7 月	R4.8 月	R4.9 月	R4.10 月	R4.11 月
鉱工業生産指数：H27=100	93.1	93.9	96.1	97.3	98.3	100.0	96.9
（前月比増減率%）	（▲10.3）	（＋0.9）	（▲0.7）	（＋1.2）	（＋1.0）	（＋1.7）	（▲3.1）

（月次は季節調整値、年度は原指数。年度増減率は前年度比較）　（出所）兵庫県鉱工業指数（県統計課）

④雇用

項　　目	R2 年度	R3 年度	R4.8 月	R4.9 月	R4.10 月	R4.11 月	R4.12 月
有効求人倍率(季節調整値)：倍	0.97	0.94	1.05	1.04	1.07	1.07	1.06
新規求人数(原数値)：人	26,812	28,235	28,326	30,042	32,540	29,402	28,849
（前年度比増減率%）	（▲20.0）	（＋5.3）	（＋10.1）	（＋2.3）	（＋6.3）	（＋10.8	（＋1.6）
雇用者所得計：円	5,418	5,340	4,630	4,683	4,685	5,283	＝
（前年度比増減率%）	（▲4.7）	（▲1.4）	（＋3.2）	（＋2.8）	（＋3.4）	（＋9.4）	（＝）

（出所）一般職業紹介状況(厚生労働省兵庫労働局)、毎月勤労統計調査地方調査(県統計課)

⑤金融

項　　目	R2 年度	R3 年度	R4.8 月	R4.9 月	R4.10 月	R4.11 月	R4.12 月
企業倒産件数：件	396	329	23	30	33	29	33
（前年度比増減率%）	（▲15.9）	（▲16.9）	（▲14.8）	（▲23.1）	（＋43.5）	（▲3.3）	（＋10.0）
企業倒産負債総額：億円	590	294	38	51	24	84	25
（前年度比増減率%）	（＋18.5）	（▲50.1）	（▲22.0）	（＋97.2）	（＋7.4）	（＋304.8）	（＋102.1）

（出所）兵庫県企業倒産状況（東京商エサーチ神戸支店）

（参考１）全国景気の現状についての内閣府のコメント

景気は、このところ一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

・個人消費は、緩やかに持ち直している。
・設備投資は、持ち直している。
・輸出は、このところ弱含んでいる。
・生産は、持ち直しの動きに足踏みがみられる。
・企業収益は、一部に弱さがみられるものの、総じてみれば改善している。企業の業況判断は、持ち直しの 動きに足踏みがみられる。
・雇用情勢は、持ち直している。
・消費者物価は、上昇している。

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待 される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスク となっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響や中国における感染拡大 の影響に十分注意する必要がある。

（令和5年1月25日 内閣府「月例経済報告」）

（参考２）県内景気の現状についての日本銀行神戸支店のコメント

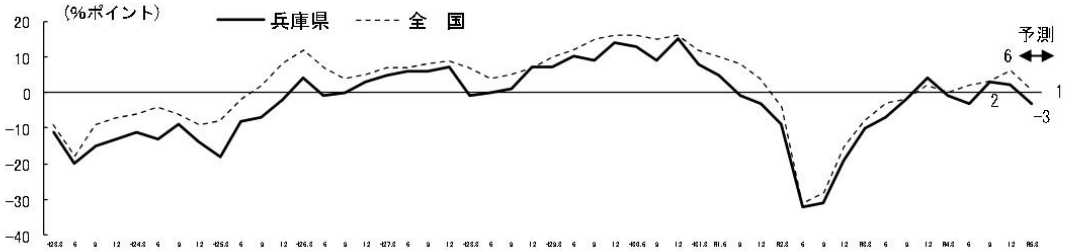
管内の景気は、持ち直している。 個人消費は、持ち直している。設備投資は、増加している。住宅投資は、概ね横ばい圏内の動きとなっ ている。公共投資は、弱めの動きとなっている。輸出は、増加している。

こうした中、生産は、緩やかに増加している。雇用・所得環境は、全体として緩やかに改善している。 消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回って推移している。

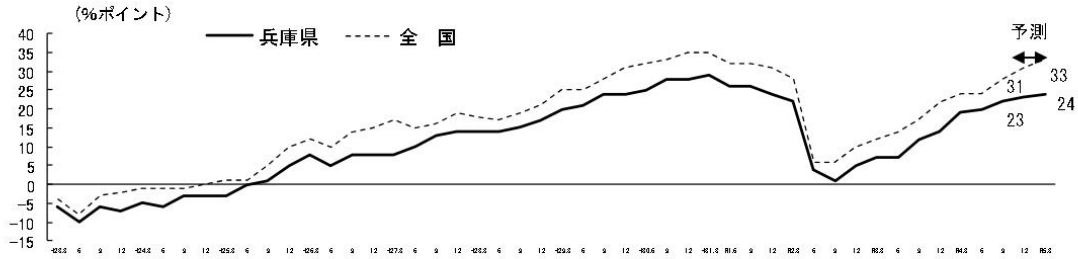
（令和5年2月7日 日本銀行神戸支店「管内金融経済概況」）

日本銀行神戸支店県内企業短期経済観測調査結果の推移

業況判断ＤＩ（良い－悪いの推移）



雇用人員判断ＤＩ（不足－過剰の推移）

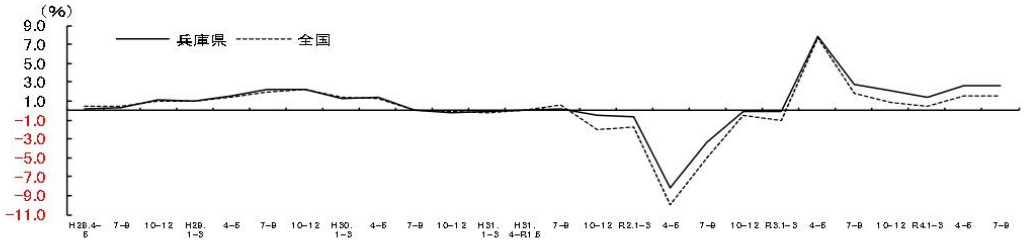


出所：令和４年12月全国・県内企業短期経済観測調査（日本銀行、同神戸支店）

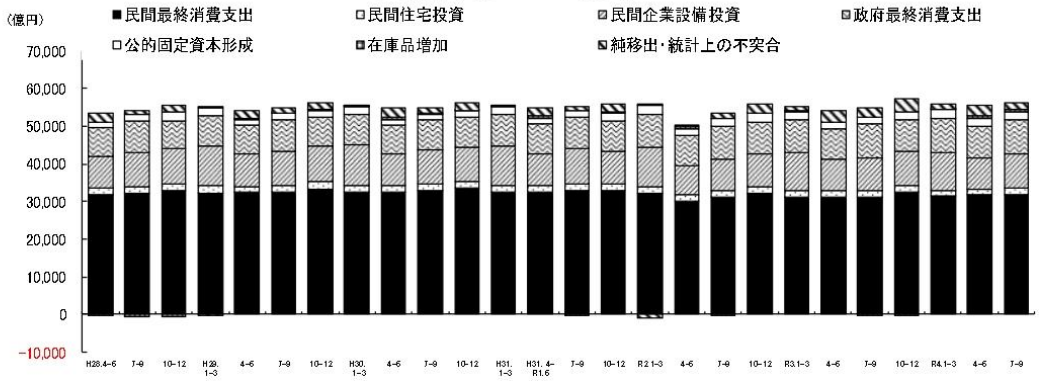
ＧＤＰ

実質ＧＤＰ(R4.7～9期)は、民間住宅投資、純移出等が対前年同期比で引き続きマイナスで推移、政府最終消費支出がマイナスに転じたものの、民間最終消費支出、民間企業設備投資、公的固定資本形成が引き続きプラスで推移し、対前年同期比は2.6%とプラスとなった。

四半期別ＧＤＰ(実質)増減率



四半期別兵庫県ＧＤＰ(実質)



出所：四半期別ＧＤＰ速報（内閣府）、四半期別県内ＧＤＰ速報（県統計課）

兵庫県・四半期別ＧＤＰ（実質）（億円、増減率％）

	29 年度	30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度
GDP(実質)	221,035	221,598	221,169	214,601	222,017
前年度比	1.8	0.3	▲0.2	▲3.0	3.5

	H2.7-9	R2.10-12	R3.1-3	R3.4-6	R3.7-9	R3.10-12	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9
GDP(実質)	53.222	55,808	55,163	54,337	54,731	56,974	55,975	55,773	56,142
前年度比	▲3.4	▲0.1	▲0.1	7.8	2.8	2.1	1.5	2.6	2.6

兵庫県・四半期別ＧＤＰ（名目）（億円、増減率％）

	29 年度	30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度
GDP(名目)	221,047	221,614	221,952	217.408	219.783
前年度比	1.7	0.3	0.2	▲2.0	1.1

	R2.7-9	R2.10-12	R3.1-3	R3.4-6	R3.7-9	R3.10-12	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9
GDP(名目)	53.719	56.831	55.071	54,646	54,012	56.481	54.644	54.511	53,571
前年度比	▲2.0	0.4	▲0.3	5.5	0.5	▲0.6	▲0.8	▲0.2	▲0.8

注１）今後公表される年度確報値とのあいだに若干の差異が生じる場合がある。
また、推計精度をより高めるため、各計数は過去にさかのぼって変更されることがある。
前年度比は原数値の増減を示す。

注２）数値は、平成 27 年基準値となっている。

注３）令和元年度までの年度数値は「県民経済計算」（県統計課）令和 2、3 年度の年度数値は「四半期別 GDP」（県統計課）

２．県内の主要業種の概況

業 種	概 況
不　動　産　業	関東の土地が高騰しているため、大手が関西での仕入れを強化しており、土地購入の競争が厳しくなっている。 マンショギャラリーは、夏に比べると年末年始は来客が多い時期ではあるが、販売価格が約 10%程度上がっているため、コロナ前に比べると客足は少ない。 昨年、一昨年に比べ、部品不足による工期遅れはあまり生じていないが、工事現場では人手不足に加え、時間外勤務の縮小や土日休みが増え、全体的に工期が延長傾向にある。 コロナ禍で投資先として法人向け収益物件が好調だが、今後は金利上昇の影響が懸念される。
鉄　鋼　業	今年 10-12月の売上・利益は前期（7-9 月）比でいずれも増加、前年同期比では、主原料価格の上昇に伴い売上は 30%程度増加見込みであるが、利益はエネルギーや保全費、労務費などのコストアップや、前年同期に受取補償金が発生していたことにより、50%程度減少見込みである。半導体不足による自動車生産の減少影響は、当初は22年度下期から徐々に回復すると想定していたが、足元想定より回復が遅れており、22 年度末まで影響が残る見通しである。 雇用については、全体的に不足感があるが、特に高卒求人倍率の増加等を背景に、工場の操業部門を中心に採用計画に対して未達の状況となっており、不足している。
飲　食　店	足元の景況感は良くも悪くもない。業績は悪くないが、新型コロナウイルスの影響や原材料価格の高騰もあり、先行きが見通しにくい。人の移動量が元に戻ってきたこともあり、今期（10-12 月期）の売上・利益は昨年同時期と比較すると増加している。最近は店内飲食も増加している。 様々な部署で人が足りないという声が聞こえており、雇用人員は不足している。 食材価格が高騰し続けており、売上に影響はないものの、利益を押し下げている。一部商品で価格転嫁を実施している。
金　融　業	11 月に実施した10-12 月期の景況調査では、景況判断は 8月調査からほぼ横ばいで、先行きは改善見通しとなった。入国制限の緩和など、新型コロナウイルスの影響が和らいだこともあり、宿泊・飲食業の景況判断が大きく改善した。一方で、ウクライナ情勢、円安等の影響で原材料価格の高騰影響があると回答した企業は７割弱となる等、先行き不透明感は依然強い。また、ほとんどの業種で人手不足感が強まっている。

令和４年 12 月　兵庫県産業労働部調査

３．地域の概況

地 域	業 種	概 況
神 戸	観 光 ・ レ ジ ャ ー	前期、前年度と比べて増収はしているが、コロナ前の客足は戻っておらず、加えて 燃料代も高騰しており、現在の景況感は悪いと言わざるを得ない。Go To キャンペーンが再開されれば、先行きは上向くと考えられるので、今後もコロナの感染状況によって左右されるだろう。 燃料代や食材の高騰が響き、粗利が目減りしている。大人数が収容できる設備は燃料代もかさむので、平日の団体客やチャーターでのみ使用し、休日は休ませることで経費の削減を図っている。
	ゴ ム 製 品	海外での売上が半分を占めるので、円安の影響から業績は好調。しかし、想定以上に原材料が高騰しており、収益に影響を及ぼしている。 世界的に物流が停滞しており、発注元の自動車メーカーでは、ラインを止めないために部品の在庫を増やそうとしている。そのため前倒しの受注があるが、年間生産量は変わらないので、今後需要は減ると予想される。 前年度ほどではないが、自動車のEV化に対応し、新たな製品の製造設備の増強を図る。
阪神南	設 備 工 事 業	売上高、利益ともに大きな変化はないが、受注は増加傾向にあり、徐々に回復の兆しを感じる。一方、半導体や樹脂を使用した電子部品の価格高騰は続いており、未だ納期が１年以上の部品もある。代替品への変更、納期の延期、先行発注等で対応しているが、価格転嫁の状況は１割程度と厳しい。余剰品の活用等の業務改善と併行して、価格上昇部品の見積への反映及び顧客の承認活動を実施し、春には一部価格転嫁できる見込みである。
	金 融 業	管内企業の景況感は資源価格高騰や円安進行等により悪い。木材や鉄鋼関連の仕入価格は高止まりし、原油に関しても中長期的には不安定な状況が継続すると見込まれる。国内外の調達価格上昇は企業努力で対応できる状況ではなく、労務コストを削減するも最低賃金の引上げにより効果が薄く、ＤＸによる業務改革も企業により進捗が二極化しており、さらにゼロゼロ融資の返済が来年度からスタートするなか、企業への新たな支援が必要である。
阪神北	輸 送 用 機 械	景況感としては自動車向け半導体の不足による減

阪神北（続き）	機器製造 輸送用機械機器製造（続き）	産、原材料等の高騰や一般管理費（電気代、人件費、輸送コスト等)の拡大であまり良くない状況がまだ続いている。 しかし、自動車業界の半導体不足は2022年秋ごろから収束に向かい、2023年中に解消すると見込まれ、急速な自動車の挽回生産が見込まれることや、また近い将来に「日本の半導体の復活及び量産」のニュースや中国政府による「ゼロコロナ政策」の大幅な緩和による自動車工場の再稼働等の明るいニュースもあり今後の生産拡大、売上増に期待している。
	製造業	半導体需要が少し落ち着いてきたが、売上高は前年と比較すると20%程度の減少であった。また利益は社内の組織変更による本社費が増加した影響もあり前年比で60%程度の減少であった。 来年度までに一部の事業を撤退する計画があり、売上高は漸次的に減少していく見 通しである。今後は、新たな事業を開拓するための開発部門への投資が増える見込み。また現在の事業を増強するための投資も来年度予定している。
東播磨	各種商品小売業	部品の製作などサービス事業が好調であり、景況感は良い。 新型コロナウイルス感染症やロシアのウクライナへの軍事侵攻等の影響は大きく受けておらず、収益に大きな変化はなく、例年どおりであるが、今後の状況を注視していく。 原材料価格の高騰については、引き続き新規ベンダーの開拓や輸送コストの削減などを実施しながら対応していく。 現在の雇用状態は適正である。募集を行っている部門についても一定の応募があり、採用について、特に問題は生じていない。
	輸送用機械器具製造業	需要の伸びに伴い、生産能力を確保するため、設備投資を行っている部門がある一方で、新型コロナウイルス感染症による影響を受け、回復傾向にあるが景況感が良いと言えない部門もあり、部門による差異がある。 原材料価格の高騰による価格転嫁は一部実施しており、収益に大きな変化はない。今後も継続して行っていく予定である。 雇用については退職者補充等を行っており、部門により差はあるものの、概ね適正である。
北播磨	木製品製造業	景況感はさほど良くない。原材料価格の高騰による対応は価格転嫁がスムーズに行われているがウッドショックの長期化の影響で木材価格の高止まりが需要に

北播磨（続き）	木製品製造業（続き）	大きな影 響を与えている。 また半導体不足の影響で、基幹システムのサーバーの納期が遅れ、工場の機械導入に影響を与えている。ＲＰＡの導入やＤＸ化の加速を図るため仕事環境の更なる整備を行っている。
	宿泊業	景況感はさほど良くない。3年にわたるコロナ禍から回復しつつある状況ではある がコロナ禍前の稼働率に戻すには至っていない。収益性の高い宴会部門の集客が回復しつつある一方、部門スタッフの採用がはかどらず、従業員が複数の部門を受け持つマルチタスク化で対応している。 また食材費や光熱費等の経費の見直しや新しいアイデアを生かしたサービスの提供などに取り組んでいる。
	老人福祉・介護事業	景況感はさほど良くない。新型コロナ、インフル同時流行の懸念が広がる中、職員本人やその家族の感染による欠勤をカバーするため残業等も多発し人材の不足感が更に増している。 AIを活用した職場環境の改善や外国人労働者の採用、働く従事者の待遇（賃金）改善など実施しているが人材不足は慢性化しておりＰＲ方法を含め効果的な人材確保対策を模索している。
中播磨	製造業	直近の受注低下状況からの早期回復は見込めず、全体的な景況感は良くない。一方、引き続き競争力の維持・強化のため最新の設備投資は計画通り行っている。 雇用については、最先端の工作機械を使いこなせる優秀なエンジニアを、海外人材・ 中途採用も含めて正社員として雇用していく計画で、必要な賃金引き上げも行う。 原材料価格の高騰は、鉄・プラ類・非鉄金属で10～20%に及び、製品への価格転嫁は交渉ベースで50%程度にとどまっている。
	百貨店業	全体的な景況感は悪くはないと感じている。売上・利益とも順調に回復途上にあるが、物価高による消費者の生活防衛意識は依然として大きい。客数は増加傾向にあるが、客単価に大きな変化はない。また直近では温暖傾向により秋冬衣料品の販売が伸び悩み傾向にある。 設備投資は前年並みだが、夏頃に新たな販売イベント等の計画が盛込まれる見込み。 定期採用は継続しており、ＷＥＢ会議の充実で業務効率の向上と労働時間の短縮を図っている。需要回復に向け、販売要員の不足には随時臨時採用で対応している。

西播磨	総合工事業	景況感は良い。冬から春にかけて渇水期になるため、仮設橋を建てての工事が多くなってくる。今年は夏あたりから件数は減っているものの、工事期間が長く、一件当たりの金額が高くなっている傾向がみられる。 職員がコロナに感染した場合の対応も整ってきたため、工事が止まることは無い。 売上等も最終決算でみればほぼ昨年と同等になる程度と推測する。 原材料の高騰に対しては、資機材のリサイクル等で改善を図ったり、原材料の仕入れ金額が比較的下がった際に購入するなど経営努力を行っている。
	宿泊業	業績は良い。「ひょうごを旅しようキャンペーン」等補助があり、コロナも落ち着いており、冬のイベントも打ち出していてかなり忙しい状況である。ただ、一部ではコロナ感染者増加のニュースも耳にしており、いつまた規制等が出るか分からないため危惧している。現在の予約は年末年始ほぼ満室状態ではあるが、１月以降も割引率が減少するもののキャンペーンは継続となるため、今後も好調であると推測する。 原材料の高騰で利益に影響があるが、旅行サイトの温泉宿のランキングで上位に上がったり、外国のテレビ取材を受けたり等の嬉しいトピックがあるため今後も頑張っていきたい。
但馬	繊維工業	景況感はさほど良くない。気温が低かったことが要因で、肌着類が多く売れたことから売上高は昨年10～12月比で７％増加。一方で、生産数量が少なかったため、利益は昨年同期比で 50%減少した。新工場の建築計画を進めていたが、収益回復に見込み がつくまで延期になった。業務の効率化と人材活用を推進するため、2024年頃に自動検反機の導入を計画している。綿糸などの原材料価格の高騰のため、価格転嫁は９月から一部で実施している。
	電気機械器具製造業	景況感はさほど良くない。売上高は昨年10～12月期より５％増加。一方で原材料価格の高騰が続き、利益は昨年同期比で20%減少した。設備投資は他地区工場閉鎖に伴い、設備移管を実施している。自動車部品関連は、当社から中継会社を通して大手自動車メーカーに流通するが、中継会社の購入量減少の影響で業績も悪化した。経営難のため、10月から求人募集を停止した。
丹波	家具・装備品製造業	景況感はさほどよくない。電気代の高騰、木材や金属といった材料費の高騰などが 経営に重くのしかかっている。OEMがメインということもあり、販売価格について全ての価格転嫁は困難であり、今後の見通しも不

丹波（続き）		透明な状況である。
	その他製造業	景況感は悪い。昨年度まではコロナ需要があったが、今年の夏頃からコロナ前よりも売上が低い状況となった。注文数が減ったため、やや人材が余っている状況である。電気代や材料費の高騰に伴い、販売価格を見直した。今後も厳しい状況が続くと予想される。
淡路	金融業	観光客は回復傾向にあり、貸別荘事業が好調であるが、昨年、一昨年あたりから自己破産、債務整理を行う事業者が増加し、特に９月以降は物価高騰等の影響から代位弁済も増加しており、景況感はさほどよくない。 雇用については、若年層の労働人口の減少や、技術・専門職の不足に加え、島外企業が高時給でのパート社員募集を行っており、地元企業の人材が流出している。
	電機機械器具製造業	物価高騰や円安等の影響により、短期的に見ると景況感はさほど良くないが、今後長期的に動きを注視していく必要がある。コロナ禍以降、電気自動車などの需要増はあるが、これまでのコロナ需要は一巡したと感じている。 働き方改革については、多様性（ＤＥＩ）についても必要になってきており、グローバルな視点で率先して取り組んでいく。翻訳関係については、ＡＩを導入している。

令和４年 12 月 県民局・県民センター調査

Ⅲ．景況調査

Ⅰ．景況調査について

○『D.I（ディフュージョン・インデックス）』による分析

D.I. とは、景気の各項目事項について、「良い」と感じている企業の割合から、「悪い」と感じている企業の割合を引いた値を示します。右の表の場合、「良い」20%－「悪い」30%＝－10%となり、D.I.値は－10ポイントと示すことができます。

業況	件数	構成比
良い	10件	20%
不変	25件	50%
悪い	15件	30%
合計	50件	100%

○引用する調査書と有効回答数について

本レポートの作成にあたり、但陽信用金庫が四半期毎に実施する「景気動向調査」の調査結果を引用しています。

（対象期間内における有効回答数）

	エリア	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
景気動向調査 （但陽信用金庫）	取引先全地域	517件					
中小企業景況調査 （福崎町商工会）	－	1件	0件	2件	3件	1件	0件

○業種の分類について

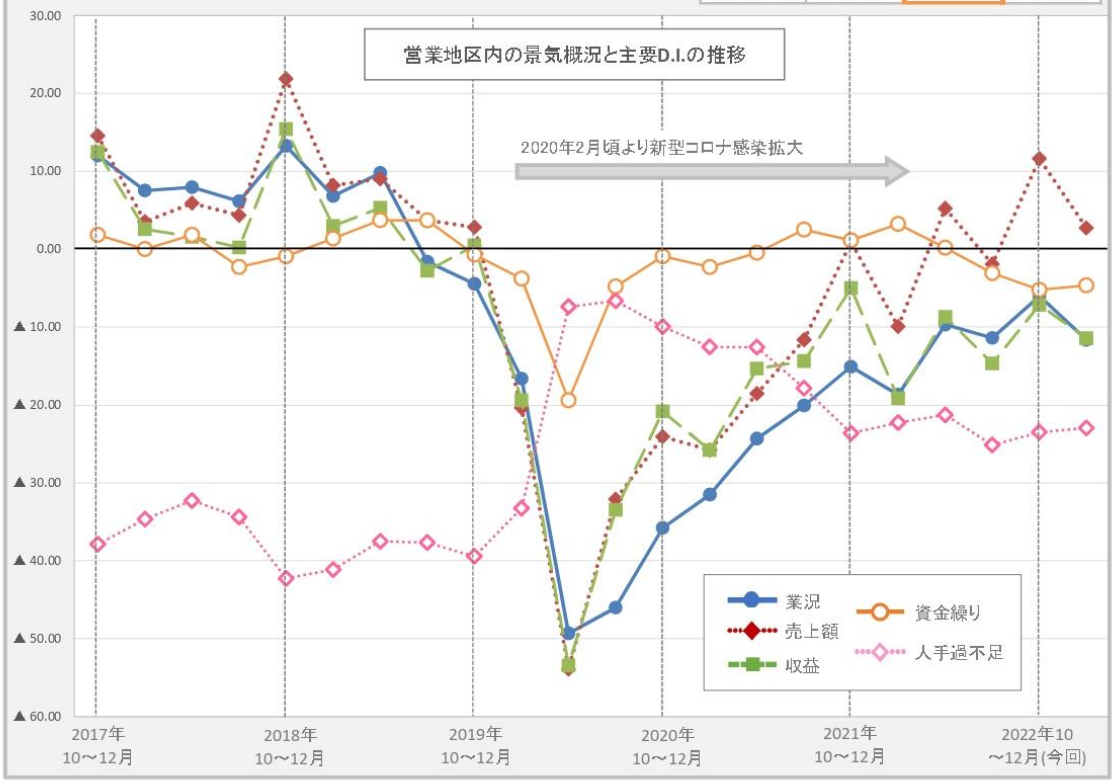
本レポートでは、飲食・宿泊業は「サービス業」とあわせて集計しています。

２．概況（全業種総合）

《但陽信用金庫》

今期の全地域・全業種における業況D.I.は▲6.01と前期から5.40ポイント改善、売上額D.I.・収益D.I.・人手過不足D.I.についても改善しましたが、資金繰りD.I.のみ低下しています。来期は業況D.I.・売上額D.I.・収益D.I.が低下し、資金繰りD.I.・人手過不足D.I.が若干改善する予想となっています。10月から開始された全国旅行支援、水際対策緩和によるインバウンド需要の増加や、コロナ感染第8波にありながらも行動制限が課されないなどの要因もあり、徐々にアフターコロナの生活様式への移行が期待されるところですが、資源価格上昇や日米金利差拡大を受けた円安による物価の上昇、コロナ融資の返済開始等が重荷と受けとめられているようです。

D.I.	2022年7～9月期	2022年10～12月期（今回）	2023年1～3月期（予想）
業況	▲ 11.41	▲ 6.01	▲ 11.63
売上額	▲ 1.93	11.61	2.71
収益	▲ 14.67	▲ 7.16	▲ 11.43
資金繰り	▲ 3.09	▲ 5.22	▲ 4.64
人手過不足	▲ 25.15	▲ 23.50	▲ 22.96



《福崎町商工会》

（全業種）	2022 年 7 月～9 月期	2022 年 10 月～12 月期	2023 年 1 月～3 月期予想
業　　況	0.00	0.00	▲14.29
売　上　額	14.29	▲14.29	0.00
収　　益	▲14.29	▲ 14.29	▲ 28.57
売 上 単 価	▲14.29	0.00	0.00
仕 入 単 価	▲57.14	▲ 57.14	▲ 57.14
資 金 繰 り	▲14.29	▲14.29	▲14.29
従　業　員	▲28.57	0.00	28.57
外 部 人 材	0.00	0.00	0.00

［2022 年 10～12 月前期比較］：上昇傾向にあるが、依然厳しい状況

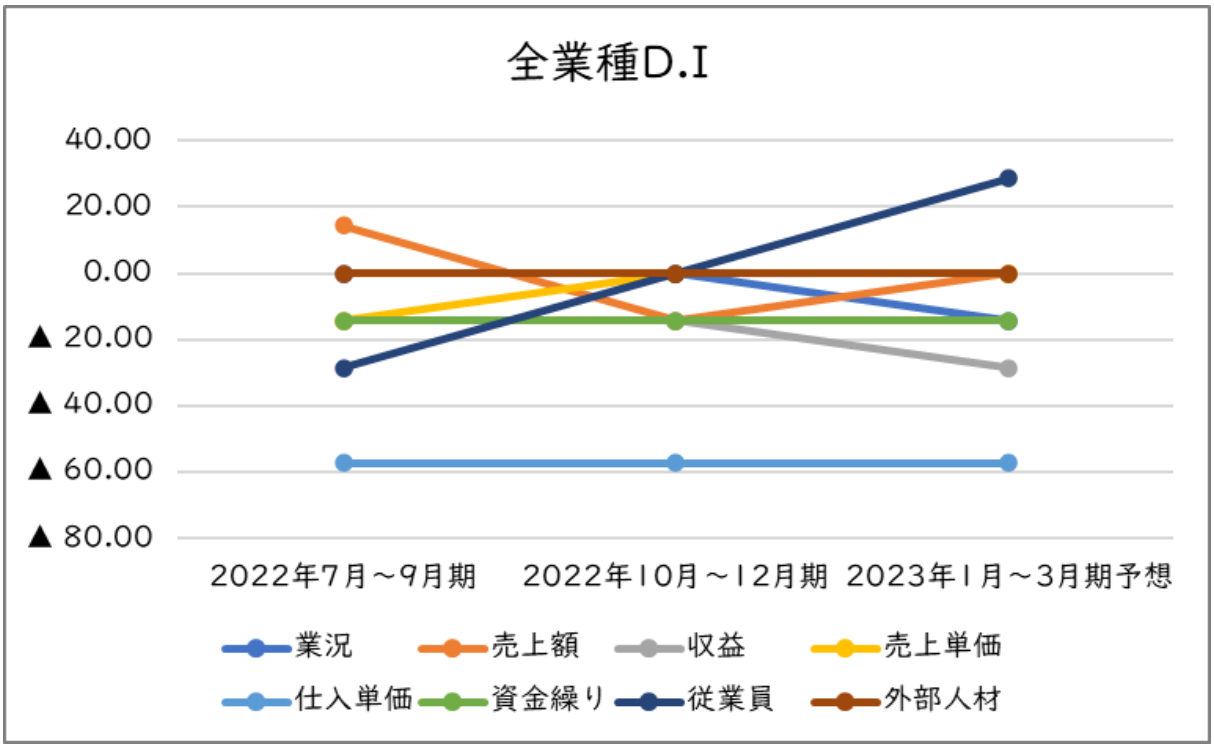
当期の業況 D.I は 0 ポイントで、前期から横ばい状態が続いています。

また、売上額に関する D.I が低下と厳しい状況、一方で売上単価・従業員に関する D.I は上昇しました。

［2023 年 1～3 月来期予想］：ほぼ横ばいの依然厳しい予想

来期の予想業況 D.I は▲14.29 ポイントで低下と、厳しい予想です。

売上額・従業員 ID が低下、収益 ID は上昇、その他は横ばいの予想です。



３．業種ごとの集計《但陽信用金庫》

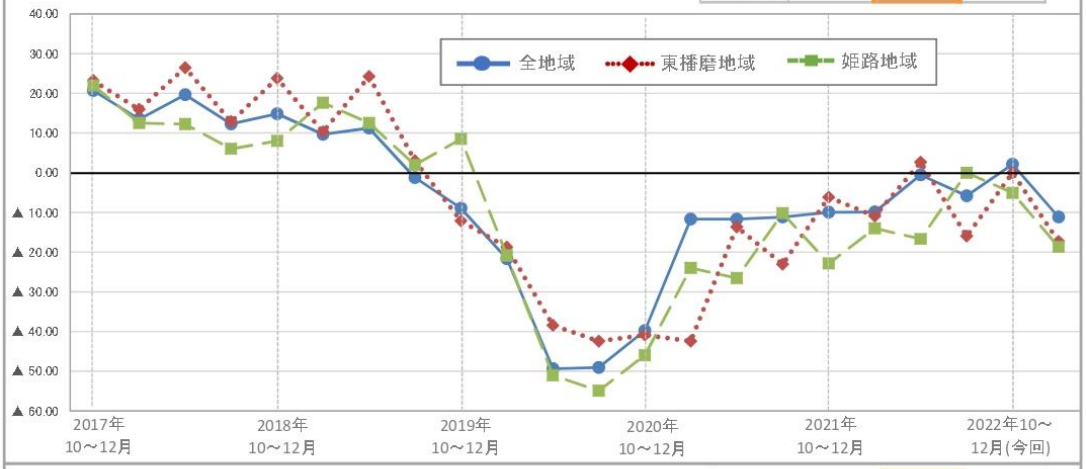
（１）製造業

■ 製造業　回答企業 189 社　回答率 99.0％

"よろず相談所" 但陽信用金庫

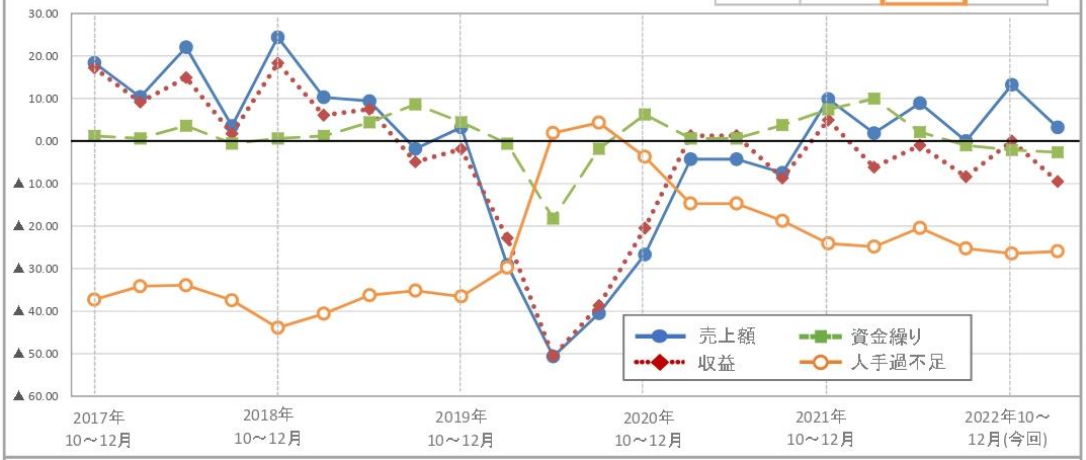
地域別業況D.I. >>　全地域の業況D.I.は2.13 と、前期から 7.95 ポイント改善しています。東播磨地域は0.00 と 16.00 ポイントの改善、姫路地域は ▲5.08 と低下しています。来期は全地域および全ての地域別で低下する予想となっています。

地域	2022年 7～9月期	2022年 10～12月期（今回）	2023年 1～3月期（予想）
全地域	▲ 5.82	2.13	▲ 11.17
東播磨地域	▲ 16.00	0.00	▲ 17.33
姫路地域	0.00	▲ 5.08	▲ 18.64

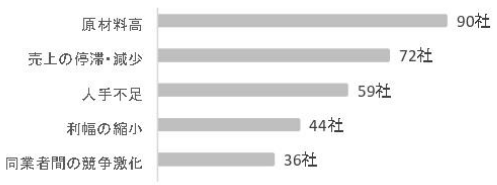


その他主要D.I. >>　今期は、売上額D.I.・収益D.I.が改善し、資金繰りD.I.・人手過不足D.I.は低下しています。来期は売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.が低下し、人手過不足D.I.は若干改善する予想となっています。

D.I.	2022年 7～9月期	2022年 10～12月期（今回）	2023年 1～3月期（予想）
売上額	0.00	13.23	3.17
収益	▲ 8.42	0.00	▲ 9.52
資金繰り	▲ 1.05	▲ 2.12	▲ 2.65
人手過不足	▲ 25.26	▲ 26.46	▲ 25.93



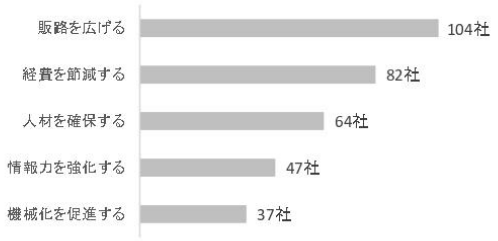
経営上の問題点(複数回答　上位5項目)



【その他の問題点】・資材調達難、半導体不足 など

【人件費以外の経費の増加】・燃料費 など

当面の重点経営施策(複数回答　上位5項目)



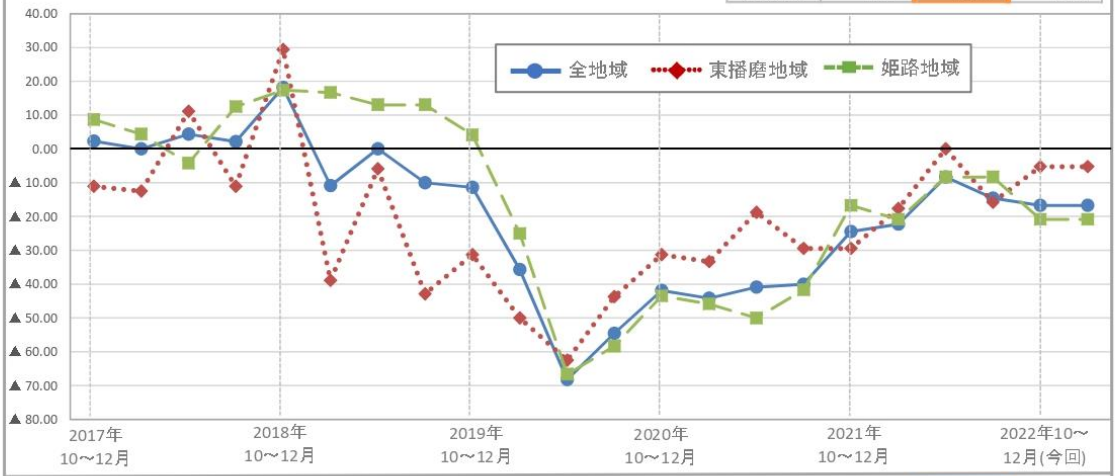
（2）卸売業

卸 売 業　回答企業 48 社　回答率 100.0 %

"よろず相談所" 但陽信用金庫

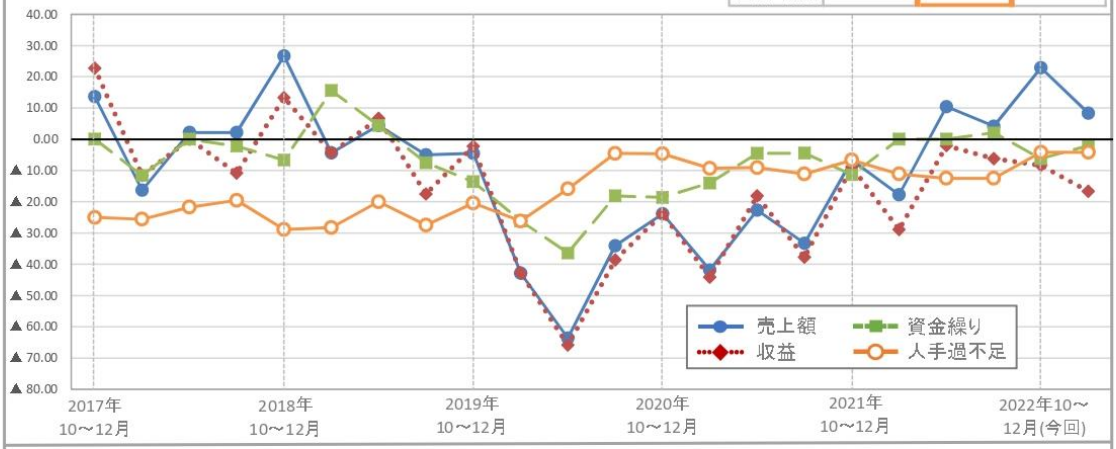
地域別業況D.I. >>　全地域の業況D.I.は▲16.67 と、前期から 2.09 ポイント低下し、東播磨地域は 10.53 ポイント改善の ▲5.26、姫路地域は▲20.83 と12.50 ポイント低下しています。来期は全地域・地域別ともに横ばいの予想となっています。

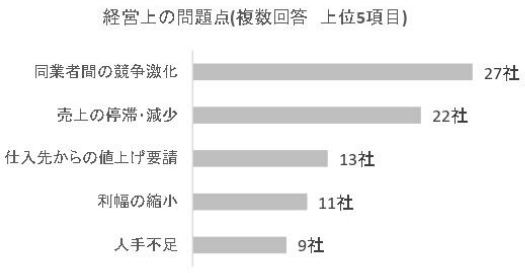
地域	2022年 7～9月期	2022年 10～12月期（今回）	2023年 1～3月期（予想）
全地域	▲ 14.58	▲ 16.67	▲ 16.67
東播磨地域	▲ 15.79	▲ 5.26	▲ 5.26
姫路地域	▲ 8.33	▲ 20.83	▲ 20.83

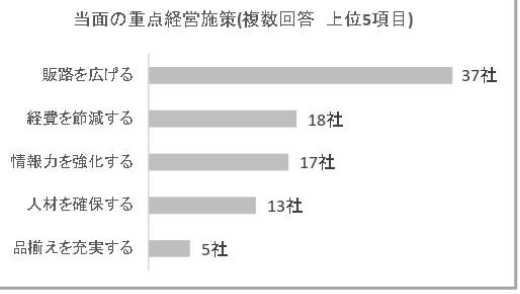


その他主要D.I. >>　売上額D.I.・人手過不足D.I.は前期から改善し、収益D.I.・資金繰りD.I.は低下しています。来期は資金繰りD.I.が改善、人手過不足D.I.は横ばい、売上額D.I.・収益D.I.が低下する予想となっています。

D.I.	2022年 7～9月期	2022年 10～12月期（今回）	2023年 1～3月期（予想）
売上額	4.17	22.92	8.33
収益	▲ 6.25	▲ 8.33	▲ 16.67
資金繰り	2.13	▲ 6.25	▲ 2.08
人手過不足	▲ 12.50	▲ 4.17	▲ 4.17







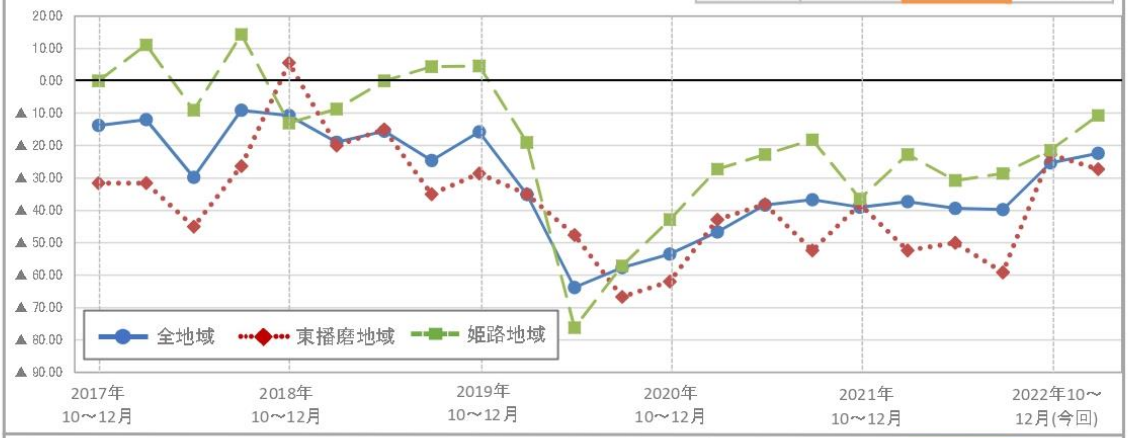
（3）小売業

■ 小売業　回答企業 67 社　回答率 98.5 %

“よろず相談所” 但陽信用金庫

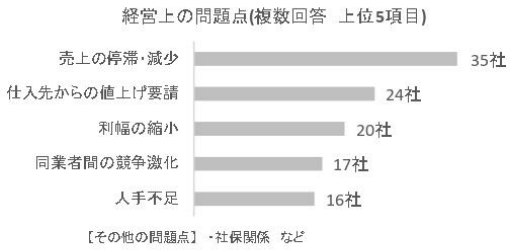
地域別業況D.I. >>　全地域の業況D.I.は▲25.37 と、前期から 14.34 ポイント改善しています。東播磨地域は▲22.73 と 36.36 ポイント改善、姫路地域は▲21.43 と 7.14 ポイント改善となり、全地域・地域別で改善しています。来期は全地域・姫路地域で改善、東播磨地域は低下する予想となっています。

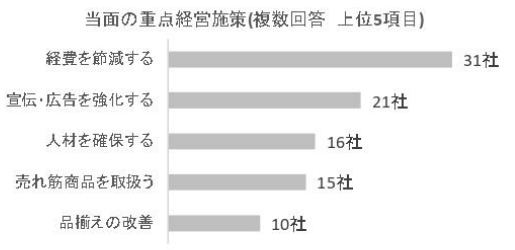
地域	2022年 7～9月期	2022年 10～12月期（今回）	2023年 1～3月期（予想）
全地域	▲ 39.71	▲ 25.37	▲ 22.39
東播磨地域	▲ 59.09	▲ 22.73	▲ 27.27
姫路地域	▲ 28.57	▲ 21.43	▲ 10.71



その他主要D.I. >>　売上額D.I.・収益D.I.・人手過不足D.I.は前期から改善し、資金繰りD.I.が若干低下しています。来期は売上額D.I.・人手過不足D.I.は低下、収益D.I.・資金繰りD.I.が改善する予想となっています。

D.I.	2022年 7～9月期	2022年 10～12月期（今回）	2023年 1～3月期（予想）
売上額	▲ 26.47	▲ 1.49	▲ 7.46
収益	▲ 42.65	▲ 19.40	▲ 14.93
資金繰り	▲ 13.24	▲ 13.43	▲ 10.45
人手過不足	▲ 26.47	▲ 18.46	▲ 20.31





設備投資の実施と予定　・計量機（ガソリンスタンド）

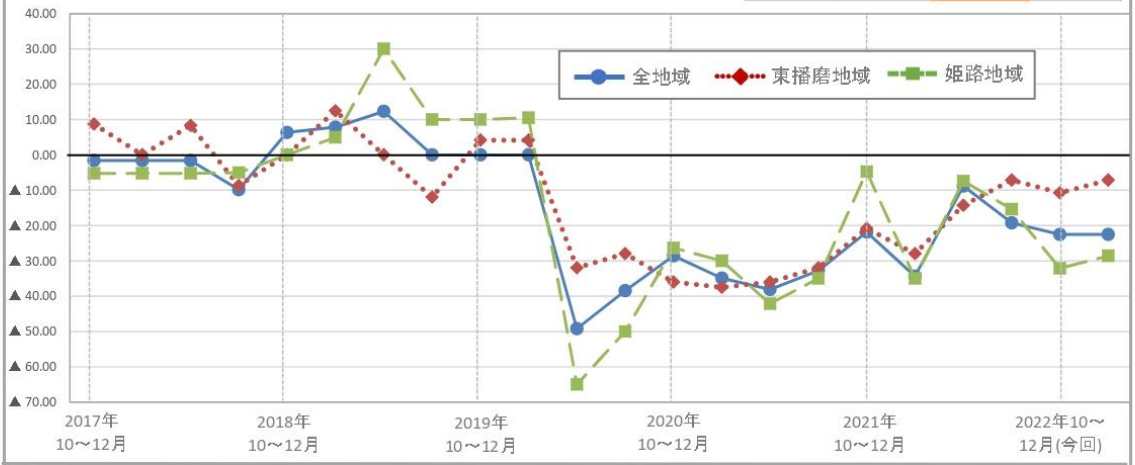
（4）サービス業

サービス業　回答企業 80 社　回答率 100.0 %

“よろず相談所” 但陽信用金庫

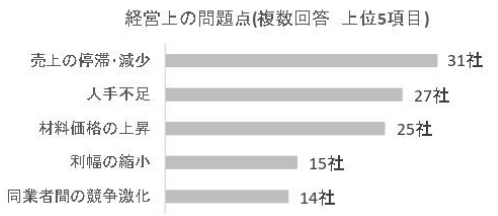
地域別業況D.I. >>　全地域の業況D.I.は▲22.50 と、前期から 3.27 ポイント低下しています。東播磨地域は▲10.71 と 3.57 ポイントの低下、姫路地域は ▲32.14 と 16.76 ポイント低下するなど、全地域・地域別において厳しい実績となりました。来期は全地域で横ばい、東播磨地域・姫路地域が改善の予想となっています。

地域	2022年 7～9月期	2022年 10～12月期（今回）	2023年 1～3月期（予想）
全地域	▲ 19.23	▲ 22.50	▲ 22.50
東播磨地域	▲ 7.14	▲ 10.71	▲ 7.14
姫路地域	▲ 15.38	▲ 32.14	▲ 28.57



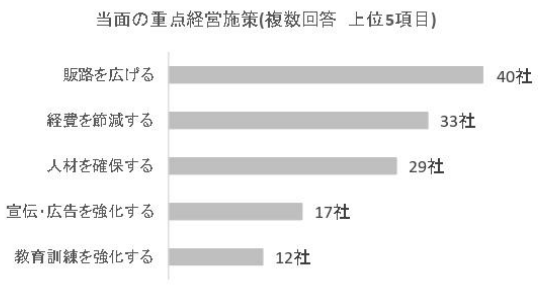
その他主要D.I. >>　今期は、売上額D.I.・収益D.I.・人手過不足D.I.で前期から改善が見られ、資金繰りD.I.は低下しています。来期は売上額D.I.・収益D.I.が低下し、資金繰りD.I.・人手過不足D.I.が改善する予想となっています。

D.I.	2022年 7～9月期	2022年 10～12月期（今回）	2023年 1～3月期（予想）
売上額	▲ 6.41	2.50	▲ 7.50
収益	▲ 12.82	▲ 11.25	▲ 17.50
資金繰り	▲ 10.26	▲ 15.00	▲ 13.75
人手過不足	▲ 42.31	▲ 30.00	▲ 27.50



［その他の問題点］・従業員の高齢化 など

［人件費以外の経費の増加］・燃料・タイヤ など



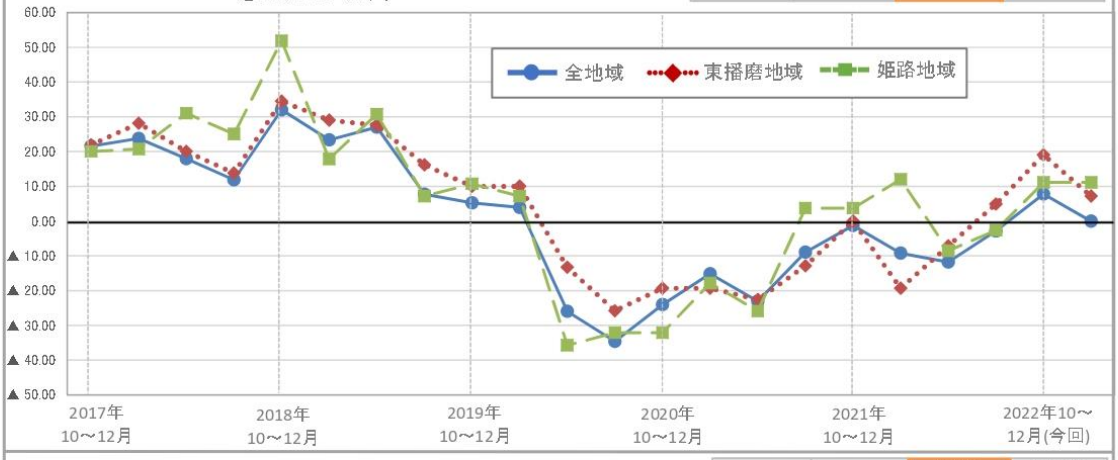
（５）建設業

■ 建設業　回答企業 103 社　回答率 98.1 %

"よろず相談所" 但陽信用金庫

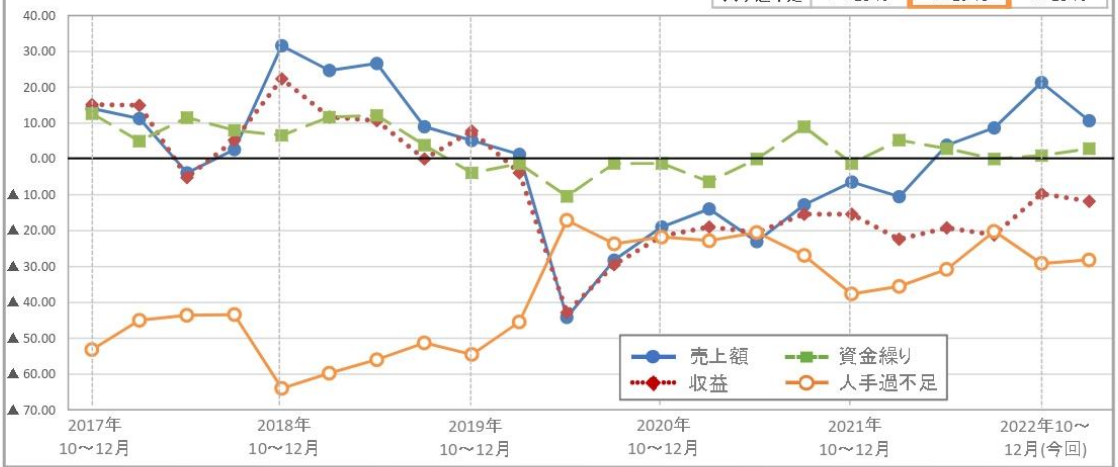
地域別業況D.I. >>　全地域の業況D.I.は7.77 と前期から 10.65 ポイントの改善、東播磨地域は 19.05 と 14.17 ポイントの改善、姫路地域が11.11 と 13.74 ポイントの改善となり、全地域・地域別で改善となりました。来期は全地域・東播磨地域が低下、姫路地域は横ばいの予想となっています。

地域	2022年 7～9月期	2022年 10～12月期（今回）	2023年 1～3月期（予想）
全地域	▲ 2.88	7.77	0.00
東播磨地域	4.88	19.05	7.14
姫路地域	▲ 2.63	11.11	11.11

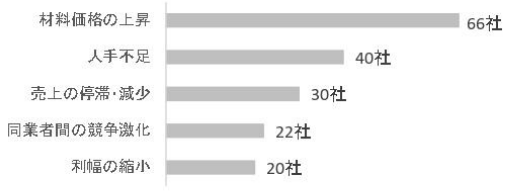


その他主要D.I. >>　売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.は前期より改善し、人手過不足D.I.が低下しています。来期は資金繰りD.I.・人手過不足D.I.が改善、売上額D.I.・収益D.I.が低下する予想となっています。

D.I.	2022年 7～9月期	2022年 10～12月期（今回）	2023年 1～3月期（予想）
売上額	8.65	21.36	10.68
収益	▲ 21.15	▲ 9.71	▲ 11.76
資金繰り	0.00	0.97	2.91
人手過不足	▲ 20.19	▲ 29.13	▲ 28.16

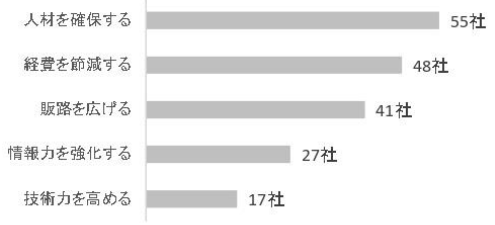


経営上の問題点(複数回答　上位5項目)



【その他の問題点】 -後継者問題、燃料費　など

当面の重点経営施策(複数回答　上位5項目)



（6）不動産業

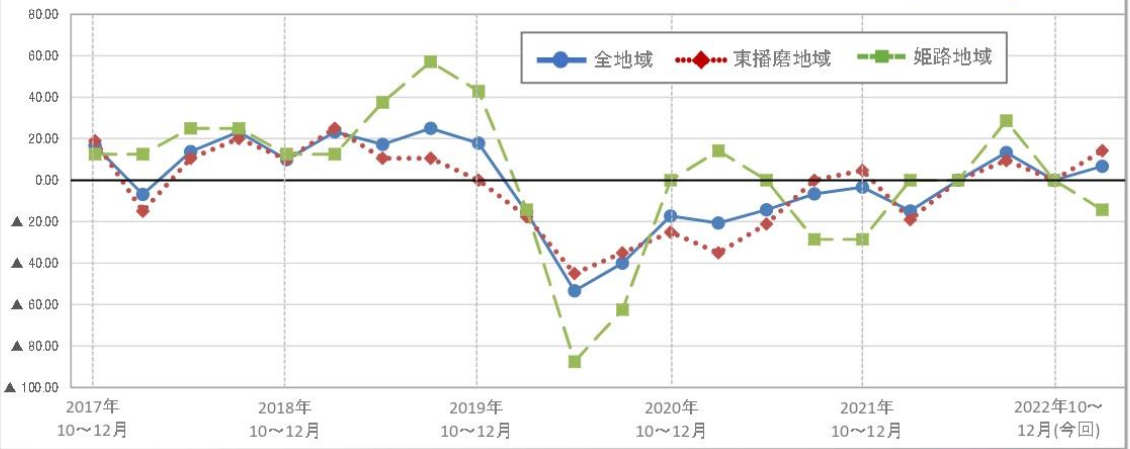
不動産業　回答企業 30 社　回答率 100.0 %

“よろず相談所” 但陽信用金庫

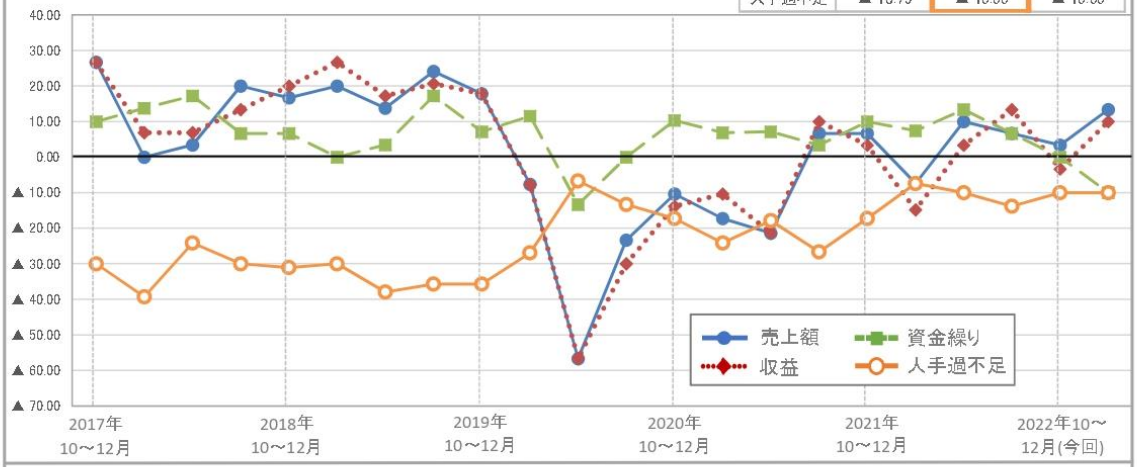
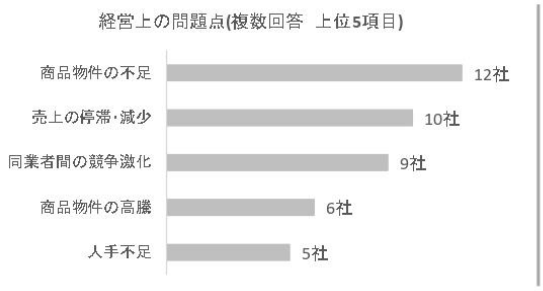
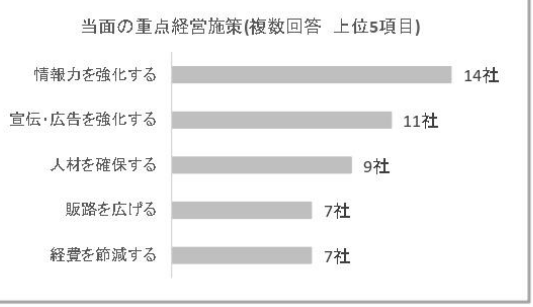
地域別業況D.I. >>

全地域の業況D.I.は 13.33ポイント、東播磨地域は 9.52ポイント 、姫路地域は 28.57ポイントそれぞれ低下するなど、全地域・地域別において厳しい実績となりました。来期は全地域・東播磨地域で改善、姫路地域は低下する予想となっています。

地域	2022年 7～9月期	2022年 10～12月期（今回）	2023年 1～3月期（予想）
全地域	13.33	0.00	6.67
東播磨地域	9.52	0.00	14.29
姫路地域	28.57	0.00	▲ 14.29



その他主要D.I. >>

売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.は前期より低下し、人手過不足D.I.が若干改善しています。来期は売上額D.I.・収益D.I.が改善、資金繰りD.I.は低下、人手過不足D.I.が横ばいの予想となっています。

D.I.	2022年 7～9月期	2022年 10～12月期（今回）	2023年 1～3月期（予想）
売上額	6.67	3.33	13.33
収益	13.33	▲ 3.33	10.00
資金繰り	6.67	0.00	▲ 10.00
人手過不足	▲ 13.79	▲ 10.00	▲ 10.00